

ふるさと交流だより

農村ボラ
ンティア
会員会報

～活動研修会報告～秋の農作業

収穫や苗の定植など、農作業が大忙しの秋、活動研修会で、3つのふるさとむらに伺いました。新聞や折り込み情報誌に活動研修会開催の記事が掲載されたこともあり、初めてご参加頂いた方も多く、農村ボランティアへの登録もいただきました。

東芦田で丹波大納言小豆の収穫

11月7日(土)神戸市役所前を出発し、秋晴れの下、丹波路をバスで走り丹波市東芦田地区の「ごりんかん」に到着。ごりんかんは東芦田むらおこしの会のメンバーが都市農村交流の拠点として建設した建物です。五右衛門風呂や宿泊施設も兼ね備えた懐かしい雰囲気の中で、ふるさとむら東芦田の代表者、芦田浅巳さんから東芦田のむら紹介、年間を通した作業の概要、ボランティアさんに是非助けて頂きたいことなどについて説明を受けました。その後着替えを済ませて少し離れた小豆の畑までバスで移動しました。一面に広がる大納言小豆の畑・・・ですが、近寄ってみないとどれが小豆の木なのか判別できないほど小さなものもありました。畑によっては雑草の中から小豆を探し出してカマで刈るといったところもあるほど、今年は不作なのだそうです。苗を植える頃に長雨が続きなかなか定植ができなかったことに加え、大雨で畑が水に浸ったこともあり、生育が思わしくないとのことでした。



そうは言っても、茎を握ってカマで刈り取る時、はじけたサヤからこぼれ落ちる大納言小豆は本当に美しく、刈り取り作業が始まると、あちこちから「あもったいない・・・」といった声聞こえてきました。

刈った小豆は、サヤごとしばらく天日干しにするため、あまり重なり過ぎないように、刈ったまま畑にかためて置いていきます。むらの方も驚く速さで次々と刈り取りを進め、お昼になりました。

お天気が良かったこともあり、用意していただいたお弁当を持って外の木陰へ。東芦田に地区登録し、明石から定期的に作業に来られているボランティアのグループの方々に、東芦田の魅力と、ボランティア活動を継続していくための工夫やご努力などを聞きながら、あっという間に時間が過ぎました。

午後の作業前に、先ほどの明石のボランティアさんに、今日の活動研修会参加者に対して「東芦田で、一緒に活動しましょう」とご挨拶頂き、車で乗り合わせて来ているなど、具体的な交通手段のお話もして頂きました。

午後の作業では、刈り取った小豆を脱穀機にかけ、サヤを取り除きます。2週間ほど前に刈り取りをした畑の中を、大きな機械が進んでいきます。ボランティアさんがその機械の横から、干してあった小豆の木をむらの方に手渡し、次々と機械に投入して行きます。機械に取り付けられた袋はどれもすぐにいっぱいになっていき、さやはものすごい勢いの空気と一緒に噴出されてきました。何度か機械が詰まって止まってしまい、脱穀は全て終了できませんでした。小豆をお土産に頂き、皆さん腰の痛みも忘れ、笑顔で帰路に着かれました。

水車の郷 新野で大納言小豆の収穫

11月22日(日)、神崎郡市川町新野地区で活動研修会を実施し、34名の方にご参加いただきました。研修会ではいつも神戸市役所前から送迎バスを運行していますが、播磨地域の方に参加して頂きやすいよう、姫路駅経由で新野に向かいました。新野では、現在の地区登録ボランティア数が1名のみで、この研修会を機に是非とも地区登録者数を増やしたいとの希望がありました。ほぼ予定通りの10時に新野の公民館に到着。ふるさとむらの黒田さんから、地区の説明と今日の作業についてご説明を頂きました。新野地区では、作業にかかる人手の不足から、小豆の刈り取りの大半を機械で行っています。手で刈り取るよりも、収穫時にこぼれ落ちてしまう率が高くなってしまふのですが、かかる時間と労働力から、機械に頼らざるを得ない状況なのだそうです。機械で刈るには、間に生えている背の高い雑草がかなり作業の邪魔になります。そこで、午前中は一面に広がった小豆畑の中で背の高い雑草を抜いていく作業を行いました。広大な畑の雑草も、熱心に作業されるボランティアさんの手によって、あっという間にきれいに抜き取られました。お昼はむらの女性陣手作りのおにぎりとおでんで体の芯から温まり、午後の作業への鋭気を養いました。午後はいよいよ小豆を手で刈り取っていきました。これもまた人手の多さに助けられ、あっという間に作業が進みました。お土産に、黒田さんのお宅の畑にある大根や、準備して頂いていた小豆やゆず、すだちを頂き、新野産小豆で作ったぜんざいをご馳走になりました。名残はつきないものの、帰りにふるさとむら新野の名物でもある水車について生田区長さんより説明を受け、帰路につきました。この日、新野には18名の地区登録希望がありました。



南あわじ 倭文でタマネギの定植

天気予報では高い確率で雨天を覚悟していた11月29日(日)、直前に好転した天候の下、南あわじ市倭文で、タマネギの苗の定植を行いました。淡路のタマネギは全国的にも有名で、この日の参加者は農村ボランティアに興味がある一般の方が半分を占めました。神戸市役所前を出発し、明石海峡大橋を渡って予定より早く倭文地区にある「農家民宿 きたや」に到着しました。ここは、田舎暮らしを体験するために古い民家を利用した施設で、五右衛門風呂や、ピザやパンが焼ける石窯も楽しみのひとつです。ここで着替えを済ませ、ふるさとむら倭文を支えているNPO法人ふるさと応援隊の北谷さんに活動についてお話を頂き、さあタマネギの定植をと意気込んだところで、タマネギのほ場の状態が良くないと聞かされびっくり。こここのところ3日に1回降り続けている雨のせいで、予定していたほ場がぬかるんで、入れない状態だということでした。それでも、比較的水はけの良いほ場を2箇所準備頂いて、苗を起こす人、運ぶ人、畝を作る人、植えていく人と自然に分担が別れ、作業が進みました。同じほ場でも水はけの悪い場所では泥土に足を取られながらの作業でした。お昼は手作りのおにぎりとおでんで体の芯から温まり、午後の作業への鋭気を養いました。午後はいよいよ小豆を手で刈り取っていきました。これもまた人手の多さに助けられ、あっという間に作業が進みました。お土産に、黒田さんのお宅の畑にある大根や、準備して頂いていた小豆やゆず、すだちを頂き、新野産小豆で作ったぜんざいをご馳走になりました。名残はつきないものの、帰りにふるさとむら新野の名物でもある水車について生田区長さんより説明を受け、帰路につきました。この日、新野には18名の地区登録希望がありました。



編集・発行

(社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17

電話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653

e-mail : koryu@forest-hyogo.jp HP : http://hyogo-rakunou.com/07_nouson_bora.html